



東京都世田谷区  
東京都大付属小

子どもたちが地域の危険な場所を調べ、犯罪から身を守る力をつける「地域安全マップ」作り教室（主催・『だいたいようぶ』キャンペーン実行委員会、特別協賛・東急グループ）が、東京都世田谷区の東京都立大付属小学校（重永睦夫校長、四百七十五人）で開かれました。四年生七十人が学校周辺を歩き、模造紙に写真を貼り付け、地図を完成させました。

地域安全マップは、立正大の小宮信夫教授が発案しました。小宮教授が「悪い人は見かけでは分かりません。自分を守るためには、危険な場所に近づかないこと」と説明

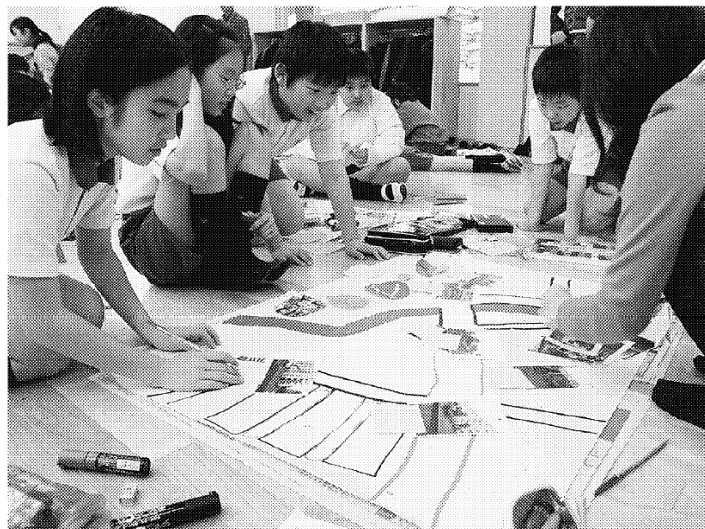
の犯罪は、二つの条件を満たすところで起きています」児童たちは二つのキーワードを覚えて、グループごとに学校の周辺を歩いて調べました。奥まった駐車場、川沿いの小道などを歩き、「安全な場所」か「危険な場所」かを考え、写真を撮りました。落書きされた電柱やゴミが散乱した公園は「見えにくい場所」、ガードレールがない道

# 危険を避けるマップ作り

しました。犯罪が起こりやすい場所の条件は二つ。一つは「入りやすい場所」。入りやすいということは逃げやすいところ。二つ目は、生け垣やコンクリートの壁などがある「見えにくい場所」。

「入りやすい場所」。入りやすいということは逃げやすいところ。二つ目は、生け垣やコンクリートの壁などがある「見えにくい場所」。

路は「入りやすい場所」。いつも歩いている道が違って見えてきました。マップ作りでは、大きな模造紙に地図を書き、写真となぜその場所が危険なのか」という理由を書いて貼りしました。「花が置いてあるから安全」「暗いから見えにくい」などと調べたことを書きました。伊藤龍永君は「住んでいる人の気持ちになって歩く」と、今まで気付かなかった落書きやゴミの散乱しているところが多くあり、驚きました。「吉川まなさんは「安全を作るのはとても難しいけれど、壊すのは簡単。塾の帰りは遅くなるので、入りやすい見えない場所を意識しておきたいです」と感想を話していました。」



危険な場所の写真を貼り、地域安全マップを完成させました

【篠口純子】

無断転載禁止

著作権は毎日新聞社に帰属します

転載承認済